

病虫害発生予察注意報 第1号

果樹を加害するチャバネアオカメムシの多発生が予測されます！

果樹園内への飛来に注意して下さい！

[発表の内容]

作物名：果樹類（ナシ、リンゴ等）

害虫名：チャバネアオカメムシ

発生量：多い

発生地域：県下全域

[発表の根拠]

- ① 本年1月下旬から2月上旬に県内42地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬量調査における越冬成虫数（本年値9.7頭、平年値1.9頭）は平年より多く、越冬地点率（本年値86%、平年値40%）は平年より高い（図1）。
- ② 5月第1半旬現在、かすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯のチャバネアオカメムシ総誘殺数は平年より多く、誘殺時期は平年より早い（図2）。
- ③ 5月第1半旬現在、笠間市の果樹園内に設置した予察灯のチャバネアオカメムシ総誘殺数は平年より多く、誘殺時期は平年並である（図3）。
- ④ 気象予報によると向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

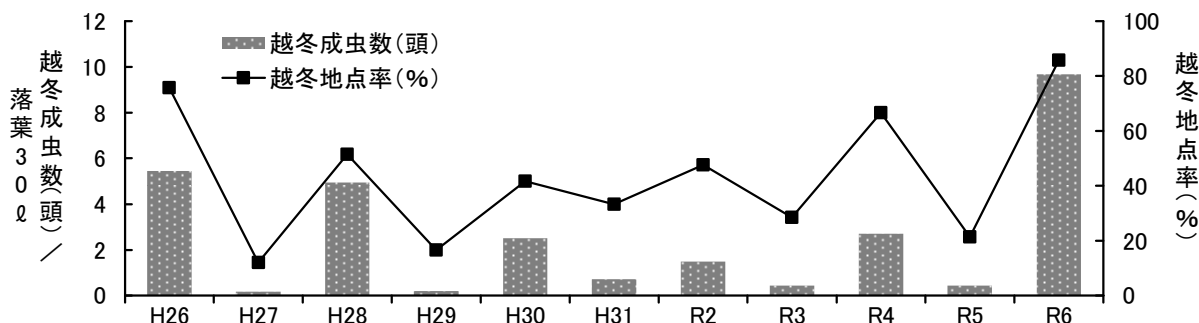


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫数および越冬地点率の年次変動

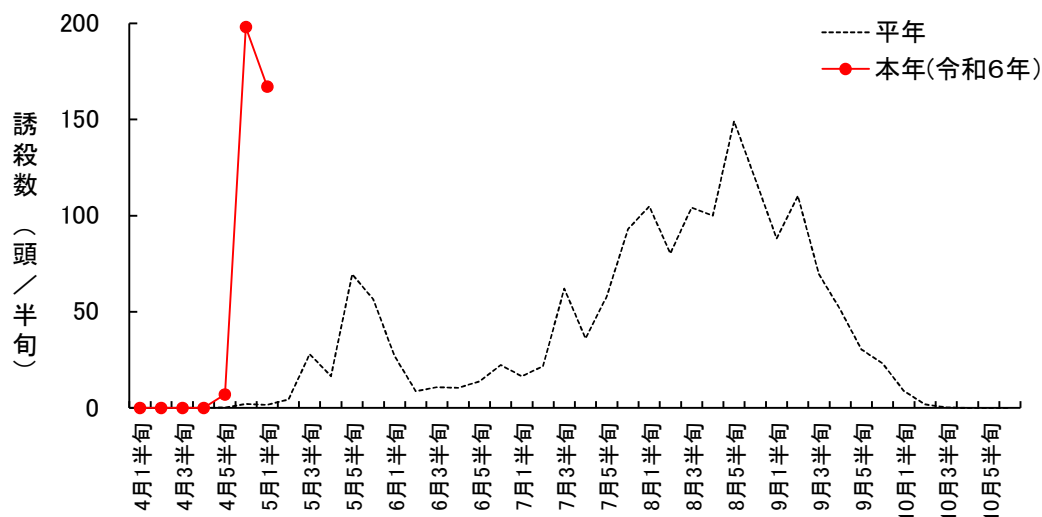


図2 チャバネアオカメムシの予察灯（かすみがうら市）への誘殺数

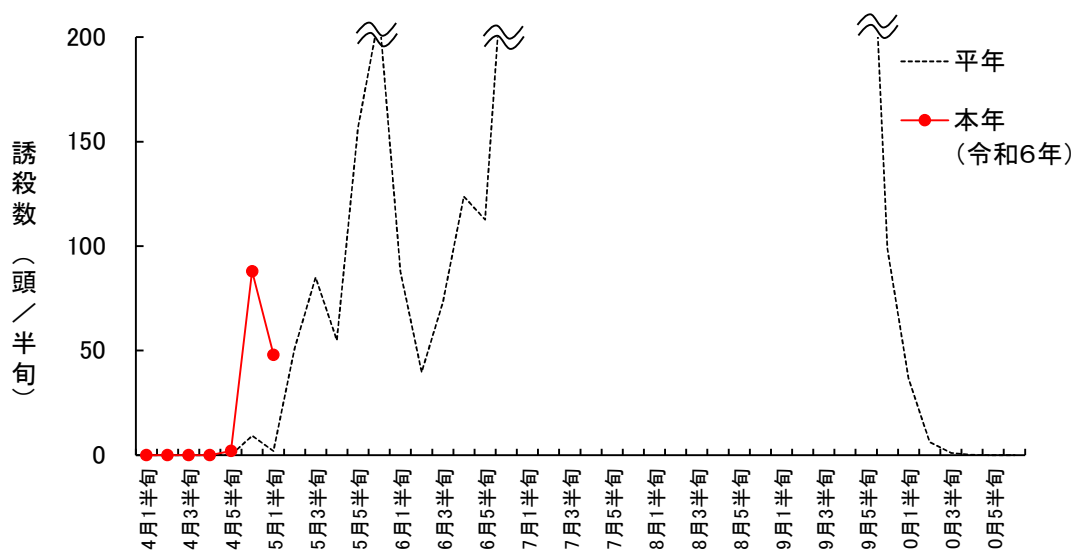


図3 チャバネアオカメムシの予察灯（笠間市）への誘殺数

[防除対策]

- ① 多目的防災網（目合い6mmまたは9mmクロス等のネット）はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になり、果樹園に飛来する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、表1を参考に活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ③ 有機リン系およびピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くおそれがあるので注意する。
- ④ カメムシ類の発生時期や発生量は地域や圃場によって大きく異なるため、定期的に圃場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。
- ⑤ 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページを参照する。

(<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/index.html>)

表1 カメムシ類に登録のある主な薬剤（令和6年5月1日現在）

作用機構分類（IRACコード） 系統名	薬剤名	ナシ	リンゴ
1 B 有機リン系	スミチオン水和剤40	○	(○)
2 B フェニルピラゾール系	キラップフロアブル		○
3 A ピレスロイド系	アグロスリン水和剤	○	
	スカウトフロアブル	○	○
	テルスターフロアブル	○	○
	ロディー水和剤	○	○
4 A ネオニコチノイド系	アクタラ顆粒水溶剤	○	○
	アドマイヤー水和剤	○	
	アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤	○	○
	バリアード顆粒水和剤	○	○
28 ジアミド系	ダントツ水溶剤	○	○
	テッパン液剤	○	○

注)・○：当該作物に農薬登録あり。

- ・スミチオン水和剤40は、リンゴの旭種とその近縁種では薬害が発生のおそれがある。
- ・テッパン液剤は、多発生時に使用する場合、効果が劣ることがあるので注意する。
- ・薬剤を散布する場合は、必ず農薬のラベルを確認し、農薬の使用基準を守るとともに、周囲への飛散(ドリフト)に十分注意する。